

学会だより

会費納入のお願い

4月になり会計年度が改まりますので新年度会費の納入をお願いします。会費は通常会員 3,500 円, 特別会員 10,000 円です。納入には今月号に同封の振込用紙を利用して三菱銀行三鷹支店日本天文学会普通預金口座(222-4434400), または郵便振替口座社団法人日本天文学会(東京 6-13595)宛振込むか, あるいは現金書留を御利用下さい。会の円滑な運営のため, できるだけ早く御納入下さるようお願いいたします。

◇ 4 月 の 天 文 暦 ◇

日 時	記 事
2 3	水 星 外合
5 1	清 明 (太陽黄経 15°)
8 4	上 弦
14 16	月 最近
21	望
20 8	穀 雨 (太陽黄経 30°)
21 16	下 弦
25 14	天王星 衝
27 21	月 最遠
28 5	木 星 合
11	水 星 東方最大離角
29 19	朔

賛 助 会 員 名 簿

(1976年3月5日現在の本会賛助会員は下記のとおりであります。ここに(社名, 代表者名を掲載させて頂いて感謝の意を表します。(五十音順))

旭光学工業株式会社	鈴木幸三郎	谷村株式会社新興製作所	谷村昌子
朝日新聞社科学部	木村繁	地人書館	中田威夫
アストロ光学工業株式会社	滝沢磐	天文博物館	
岩波書店	岩波雄二郎	五島ブラネタリウム	五島昇
宇宙開発事業団	島秀雄	東京電力株式会社	木川田一隆
沖電気工業株式会社	佐藤敦之	東北電力株式会社	若林疆
近江屋写真用品株式会社	野呂幸義	長瀬産業株式会社	
カールツアイス株式会社	波木泰雄	コダック製品部	広田悟
関西電力株式会社	芦原義重	ナルミ商会	村上俊男
関東電気工業株式会社	関井忠夫	日本光学工業株式会社	彌永恭二郎
九州電力株式会社	瓦林潔	法月鉄工所	法月惣次郎
啓文堂松本印刷	松本喬	丸善株式会社	司村義一
恒星社厚生閣	志賀正路	三鷹光器株式会社	
甲南カメラ研究所	西村中子	三菱電機株式会社	
五藤光学研究所	五藤育三	宇宙開発部	土井博之
金光教本部教庁	金光鑑太郎	ミノルタカメラ株式会社	田嶋一雄
島田理化学工業株式会社	前田幸夫	八洲測量株式会社	西村正紀
誠文堂新光社	小川茂男	フジ見商会	坂本多賀志
ソニー株式会社	井深大		

1976年1月の太陽黒点 (g, f) (東京天文台)

1	1,	2	6	0,	0	11	0,	0	16	1,	28	21	1,	6	26	0,	0
2	0,	0	7	0,	0	12	2,	5	17	1,	23	22	1,	5	27	1,	1
3	—,	—	8	0,	0	13	2,	15	18	1,	20	23	1,	4	28	0,	0
4	—,	—	9	0,	0	14	0,	24	19	1,	13	24	1,	2	29	0,	0
5	0,	0	10	0,	0	15	1,	36	20	1,	8	25	0,	0	30	1,	1

(相対数月平均値: 10.0)

31 1, 1

昭和51年3月20日	発行人	〒181 東京都三鷹市東京天文台内	社団法人 日本天文学会
印刷発行	印刷所	〒112 東京都文京区水道2-7-5	啓文堂松本印刷
定価 300 円	発行所	〒181 東京都三鷹市東京天文台内	社団法人 日本天文学会
		電話武蔵野 31局 (0422-31) 1359	振替口座東京 6-13595

4月の星座 野尻抱影

1. しし (LEO)

天も花に酔えりや、星々もとろり目の4月。中心のしし座は25日に子午線経過、石橋の「獅子の座にこそ直りけれ」となる。黄道の第4位、押しも押されぬ貫禄でこれが暮春から初夏の主座にあるのも偶然ではない。学者によっては起源をバビロン出土の粘土板のライオンとして、夏至の赫々たる太陽を百獣の王に象徴し黄道にすえたものだろうかという。アラトスの星表では LEON である。

西向きに腹ばってかっ opening している巨口は5つの星の作るカーブで逆疑問符に比べられるが、草刈りガマとよんで出来秋の心用意を表わす名はより趣きが深いと思われる。

カマの柄に白光を放つのは、「ししの心臓」ともいうαレグルスで、黄道の真上に位置する唯一の1等星、毎年8月20日ごろ星の太陽に掩蔽されることも何か天意を空想させられる。

ときたま見物して面白いのは、ししがまだ東から昇りはじめのころは、まさしく前脚を上げて天に駆け上がる姿で、同時に北に駆け上がる大ぐまと背中合わせになり、やがて南と北に別れて大空を分有する。このとき、ししの全容も南中のころよりはっきり見とどけられる。ししの後半身はβの2等星デネボラ(尾)が2つの3等星と直角三角形を描く部分である。後に星座に附加されたものらしい。

βはわりに目立たない星だが、5月3日に子午線を経過しアルクトゥールスとスピカとともに大きな直角三角形を描く。いわゆる春の大三角で海上の示標である。αからβまでが約25°、北斗七星が全長26°、これが星空を南北に切半し、対立しているわけである。けれど、この巨大な野獣もしばらくは夕霞にぼかされて、無重力状態のようにふんわりと空に浮かんでいる。

レグルスについて一言すれば、これは、プトレマイオスがギリシア名でバシリスコス(王)と名づけたのがラテンに入ってレックス(王)と訳され、指小辞をつけてレグルス(小王)となったものという。

日本では、ししの大ガマを機織りの糸車とみて、イトカケボシという地方があるが、レグルスにあたる名がない。私はシンボシと仮称してきた。戦時中、海軍航空隊の若い教官が2人面会を求めて、1等星の名を覚えやすく和名にしたいから提供してほしいと依頼された。そのときもシンボシとするより仕方がなかったが、スケレ

トンの天球儀を二台、銀座の玉屋で作らせ、星名は金属板に打ち抜いて鑄つけたという話だった。終戦間際に挨拶に来て、残念ながら天球儀の一台は横須賀の海へ葬ったが、一台は記念にいずれ進上すると言って帰った。しかし、それぎりで終わった。これもどこかの海底でカキ殻に埋れているのだろう。大学から応召したというまだ白面の海軍大尉たちだった。消息はその時限りだが健在ならあるいはこの随筆を読んで下さるかも知れない。ししぼしを書いて、このはかない戦争ロマンスを思い出した。

2. うみへび (HYDRA)

子午線経過は4月25日だが、全長105°、正にえんえんたる長蛇で、頭部はかに座の真下5°にすくと立ち、前月末に同時に南中した。3等、4等の他5つの星のダイヤ形だが、まさに影画遊びのカマ首である。しかし、折りからの春山のサワラビの握りこぶしに見立てたい。

さらに二十八宿の柳宿と聞くと、夢は古えの長安へと飛ぶ。春日旅立つ人を瀾橋まで送って楊柳の一枝を手折り、輪にして袖に入れ離愁を惜しんだという故事である。名詩も多く残っている。

神話ではアミュモネの沼地に巢食っていた怪蛇ヒュドラである。Water-snake だから「うみへび」は誤訳である。数年前上野で見たギュスターヴ・モロウの名画展では、入口の大幅にこのモンスターが電柱のように直立し、9つのカマ首がべらべらと舌を吐きつつヘラクレスを見おろし、あたりには毒気の中てられた死骸がごろごろしていた。凄惨で長くは見ていられなかった。

春の夜闇では、黒いラジャ紙に飛び飛びにあけた針目のように、ぬか星が続いているが、その途中でぼつんと目を捉える赤い2等星がαである。暗闇で誰れかひっそりふかしているパイプの赤い火を思わせる。

「ホル・ヒュドレ」(へびの心臓)の名もあるが、アラビア名のアルファルド(淋しきもの)がよく感じを表わして広く知られている。南中は4月12日。

書経の堯典には、二十八宿以前に空を鳥・火・昂・虚と四大区分していた。鳥がヒュドラにあたり、「朱鳥」ともいったのもアルファルドの赤い色からである。鳥は鳳凰で、この星を後に鶉火といった鶉もウズラでなく、鳳凰である。高松塚の崩れた南壁にもかかつてこの瑞鳥が描かれていたに違いない。

「日ひとしくして星は鳥、以て仲春を殷んにす。」(堯典)とは庶民に授けた農事訓で、昼夜の平分を教えた文句である。茫々数千年、その星は今夜もぼつんと朱火を点じている。

